

当院かかりつけの妊婦さんへ

新型コロナウイルス感染症に関しては収束がみえず、妊娠中の皆さんはご自身の体だけでなく赤ちゃんへのご不安もとても強いと思います。

まずは今できる感染予防をしっかりと行ってください。

そして困難な状況ではありますが、私達も共に努力し、皆様に安全な分娩、安心した産後を過ごしていただけるよう精一杯サポートさせていただきます。

よく聞かれる質問を以下のようにまとめました。

Q1：妊娠中はコロナウイルスにかかりやすいですか。

A：妊娠中だからと言って感染しやすいということはありません。感染率は一般の方と同じと言われています。

感染予防に手洗いの徹底と、3密（密閉・密集・密接）を避けるなどの注意も同じです。

働いている方は、ご自身の体調なども踏まえ、時差通勤やテレワークの活用、休暇の取得などについて勤務先とご相談ください。

Q2：妊娠中にコロナウイルスに感染してしまった場合、重症化しやすいですか。

A：妊娠中の重症化率は一般の方と変わらないとされており、今のところ胎児の異常や死産、流産を起こしやすいという報告はありません。

しかし妊娠中は大きくなった子宮によって横隔膜が持ち上げられ呼吸が抑制されやすいので、肺炎の状態になった場合は重症化する可能性が指摘されています。

風邪症状や 37.5 度以上の発熱が 2 日程度続く方、強いだるさや息苦しさがある場合は、早めにご相談ください（保健所の指示に従っていただきます）。

Q3：帰省分娩を考えているのですが。

A：急な帰省分娩の検討は避けてください。

コロナウイルスに感染していても無症状の方が、地方に移動することで感染を拡大させてしまう可能性があります。感染リスクの高い地域から当院への帰省は現時点では原則お断りさせていただきます。

ご家族、他の妊婦さん、患者さん、医療スタッフに感染を広げることを避けるためご協力をお願い申し上げます。

当院から他院へ帰省される場合は、早めに帰省先の病院へ連絡し指示に従ってください。

※政府からの緊急事態宣言解除を受け、当院では中止していましたが帰省分娩を6月1日より再開します。

Q4 : 健診で病院へ行くことも心配なのですが。

A : 感染状況によっては妊婦健診の間隔を延ばしたり、超音波検査の回数を減らすことがあります。不安な症状がある場合はどうぞ電話などでご相談ください。
なお少しでも感染リスクを減らすため、現在外来の付き添いはご遠慮いただいております。

Q5 : 分娩時の対応はどのようになりますか。

A : 当院では感染が収束するまで立ち合い分娩を中止とし、入院中の面会も禁止させていただきます。産婦さん、ご家族にとっては貴重な時間を共有できないこととなり大変申し訳ありませんが、母児の安全のために院内感染のリスクを可能な限り減らす必要があります。ご理解の程何卒お願いいたします。

Q6 : もし妊娠中コロナウイルスに感染してしまった場合どうなるのですか。

A : 対応可能な高次医療施設（信州大学病院等）へ紹介となります。その際の分娩方法は施設毎に違いますが、帝王切開が考慮されることが多いようです。

今後しばらくは感染への強い警戒が必要となります。

症状がない方でも感染の可能性があります。外来受診時、病棟入院時にはマスクの着用をよろしくお願いします。

一日も早い、新型コロナウイルス感染の収束と、皆さまの健康を心よりお祈り申し上げます。

医療法人 仁雄会 穂高病院
産婦人科 古川 穰
古川 哲平
宮本 翼

2020年4月14日